



【知床森林生態系保全センターとは】

知床森林生態系保全センター（以下、知床センター）の仕事は、森林管理局の中でも特殊なものです。ご存じのとおり、知床は世界自然遺産に認定されており、世界的に希少な自然環境が魅力的な場所です。知床センターは、この世界自然遺産に認定されている知床の素晴らしい自然の価値を保つことを目的に業務を行っています。

具体的には、知床世界自然遺産には、その価値を保つための取り組みや、その価値が保たれているかをチェックするために行うモニタリング等について定めた管理計画等があります。知床センターでは、これらに基づいたモニタリング事業の実施や、専門家がこれらを評価し、助言を行う会議の運営等を行っています。

【野生生物観測調査】

知床センターでは、管理計画に基づいた様々な調査事業を行っており、その一つに野生生物観測調査があります。この調査は、適切な生態系の管理に繋げることを目的に、センサーが反応すると自動で撮影を行うカメラを林道沿いの木に設置し、野生生物の生息状況を観測しています。

2カ所の林道でそれぞれ2ヶ月間調査を実施しており、設置期間中は週に1度見回りを行っています。

【関係機関との連携】

知床センターでは、関係機関と連携して仕事をすることがあります。その中の1つが羅臼岳の登山道整備です。これは環境省や地元の山岳会と行っており、雪や笹などで見えなくなった登山道を登りやすくするため、ロープの設置や笹の刈り取りをしています。



センサーカメラで自動撮影されたヒグマ。延べ4ヶ月の調査では、2,000枚以上の写真が撮影され、そこにはエゾシカやヒグマ、タヌキやキツネといった様々な動物が写り、時にはアメリカカミンクといった外来種も写ることがあります。また、これらの調査を踏まえて、計画の改定などを行います。



登山道へのロープの設置。ロープはあくまでも目印で、掴んで歩くためのものではありません。このほか、看板の設置なども登山シーズン前に行います。

【おわりに】

知床センターでは、このほかにも様々な業務を実施しています。紙幅の都合上、紹介できなかったものについては、知床センターの[ホームページ](#)で紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

